

## 令和7年度 包括的な支援体制の構築・整備に向けたモデル事業 実績報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

社協名	清川村 社会福祉協議会
対象となる実践・テーマ ※いずれか1つに○をつける	(1)行政および地域の関係機関・団体、担い手との協働による包括的支援体制構築の促進
	○ (2)個別支援と地域支援の一体的推進、および「相談支援」「参加支援」「地域づくり」を意識した具体的実践の促進
	(3)その他、包括的支援体制の構築に関わる取り組み
事業名	清川村における地域課題解決に向けた協議体運営
<p><b>事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕</b>  <small>※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入して下さい。  <small>※各市町村社協ホームページ等にて本事業の掲載等を行う場合は、URL を記載して下さい。</small></small></p> <p>〔事業の目的〕  地域住民に地域課題を自分事として捉えてもらい、課題解決に向けて主体的に取り組める体制の構築を目的とする。</p> <p>〔取組みの概要〕  上記目的を達成するにあたり、様々な地域で実践経験が豊富な武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授の渡辺裕一氏に助言をいただくことにした。</p> <p>担い手研修の準備段階から渡辺氏に入っていたいただき、清川村の特徴や課題を共有した。令和7年度に関しては地域の困りごとを抽出することとし、渡辺氏より「住民に直接インタビューを行うと良い」との助言をいただき、今年度の研修は地域の担い手を対象に会話から困りごとを聞き取る方法を学ぶ研修を開催することとした。</p> <p>また、村行政においては第10期介護保険事業計画策定に向けたアンケート調査を予定しており、このアンケートに独自項目として地域課題を発掘できるような質問に関しての助言を併せていただいた。</p> <p>○研修の実施内容  2月3日（火）担い手研修開催（社協主催）  「会話から気づく、聴き方研修～一人ひとりの困りごとを地域の課題として捉えるために～」  【講師】武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授 渡辺裕一氏  【対象者】民生委員児童委員、各種団体の役員、サロンの担い手  【内容】講義「地域の課題の捉え方」  グループワーク「住民への聞き取りの仕方」  ・清川村の住民が感じている困りごとや課題について知り、地域の困りごととして捉えて住民同士の力で解決できるように前半は講義を、後半は実際に住民に困りごとや課題感を聞き取るための方法についてグループごとに練習をした。</p>	

・研修後は自分達が住む地域の住民に実際に困りごとを聞き取り、3月村主催の研修にて課題を持ち寄ることになった。

○3月は村主催の生活支援体制整備事業の担い手研修を実施

内容は「地域の課題に向き合う」講師：武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授 渡辺裕一氏  
2月の社協主催の担い手研修から引き続き同じ参加者を対象とし、実際に住民から聞き取った内容を持ち寄り、地域でどのような課題が多かったのか、そしてその課題を解決するためにできることなどを話し合った。

○村主催の第一層協議体にもオブザーバーとして渡辺氏に参加していただき、今後の取り組みについて助言をいただいた。

<2月3日担い手研修の様子>



[今後の展望について]

令和8年度は地域の課題に対して担い手の方を中心に今後の取り組みについて話し合う機会を数回設ける。また、他の市町村で同じような課題を抱え実際に取り組みを行っている地域に視察に行くことを検討している。